PC ラベルソフト SPC10
「SPC10-API」機能
サンプルプログラム 簡易マニュアル

Copyright 2014-2015 KING JIM CO.,LTD.

目次

はじめに 2
サンプルプログラム動作環境 3
サンプルプログラム使用方法 4
開発者様向けのご案内 6

はじめに

本書は、「SPC10-API」機能サンプルプログラムの使用方法について書かれています。あわせて「テプラ」本体およびPCラベルソフトSPC10の取扱説明書、「SPC10-API」機能ユーザーズ ガイドをご覧ください。

本サンプルプログラムは、Excel マクロ有効ファイル(.xlsm)とレイアウトファイル(.tpe)で構成されています。

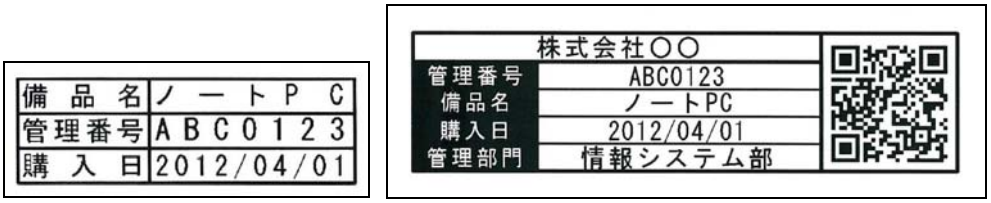
Excelマクロ有効ファイル(.xlsm)は、「テプラ」PCラベルソフトSPC10および「テプラ」プリンタドライバの呼び出しコマンドを VBA プログラムとして組み込んでいます。このファイルを開いて「印刷」ボタンをクリックすることで、直接「テプラ」でラベル印刷をおこなうことができます。

レイアウトファイル(.tpe)は、SPC10の流し込み機能を使用して作成したファイルです。API連携でこのファイルを呼び出し、設定したデザインに印刷データ(.csv)を流し込んでラベル印刷します。

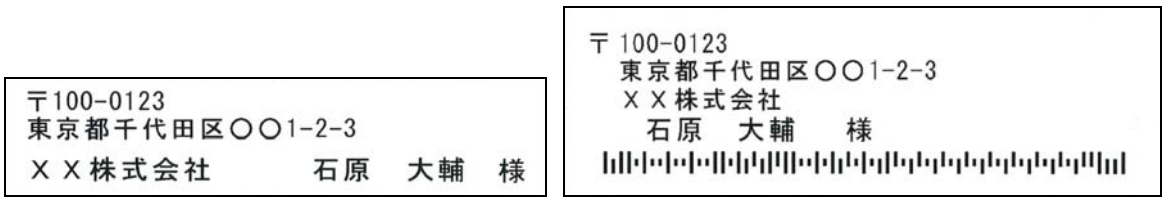
本サンプルプログラムでは、お手持ちの「テプラ」から、「備品管理ラベル」「宛名ラベル」「値札ラベル」の3つの用途にあったラベルを印刷することができます。

【「テプラ」PRO SR5900P でのラベル印刷例】　※画像は原寸サイズではありません

〇備品管理ラベル



〇宛名ラベル



〇値札ラベル

サンプルプログラム動作環境

本サンプルプログラムは以下の環境にて、正常に動作することを確認済みです。

OS： Windows 10 / 8.1 / 8 / 7 （32/64bit 版）各日本語版

Excel： Excel 2013 / 2010 / 2007

対応機種は、「テプラ」PRO の以下の機種です。

SR5900P / SR5500P / SR3900P / SR3700P / SR3500P /
SR970 / SR950 / SR750 / SR550 / SR530

対応テープ幅は、12mm / 18mm / 24mm / 36mm です。

ラベルソフト及びプリンタドライバの必要システムは、ラベルソフトの取扱説明書を参照してください。

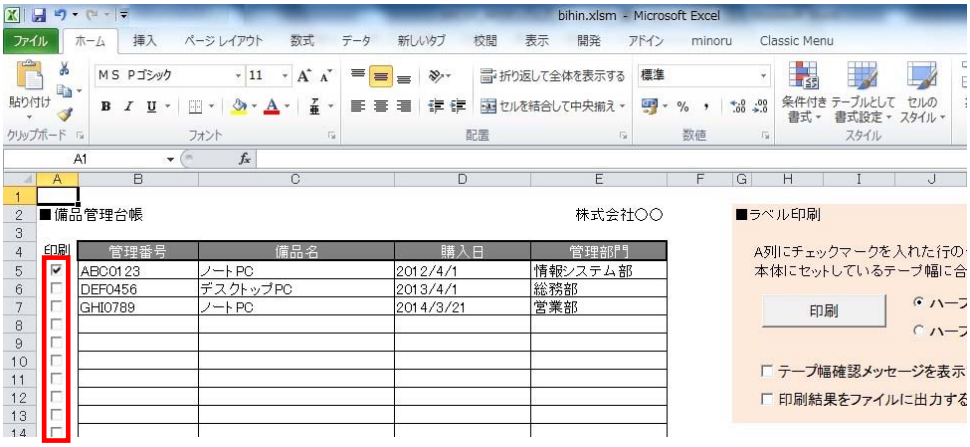
サンプルプログラム使用方法

① Excel を搭載した PC に、「テプラ」PC ラベルソフト SPC10 アプリケーションと対応機種のプリンタドライバをインストールします。
インストール方法については、ラベルソフトの取扱説明書を参照してください。

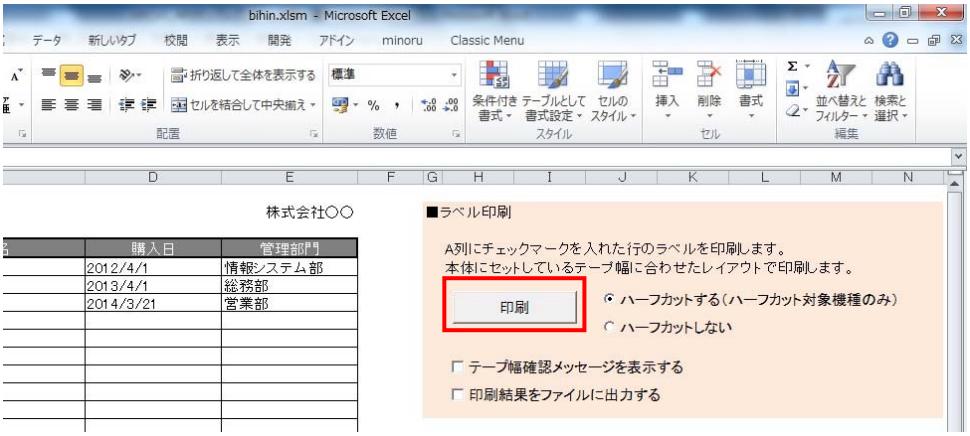
② 当社ホームページよりダウンロードしたサンプルプログラムのファイル一式を、デスクトップ等に保存し、ファイルを解凍します。

③ 解凍された「bihin」（または「atena」、「nefuda」）フォルダ内の「bihin.xlsm」（または「atena.xlsm」、「nefuda.xlsm」）ファイルをダブルクリックして開きます。

④ 管理項目の一覧表の左端のチェックボックスに、印刷するデータのみチェックマーク（レ）を入れます。



⑤ 「印刷」ボタンをクリックします。

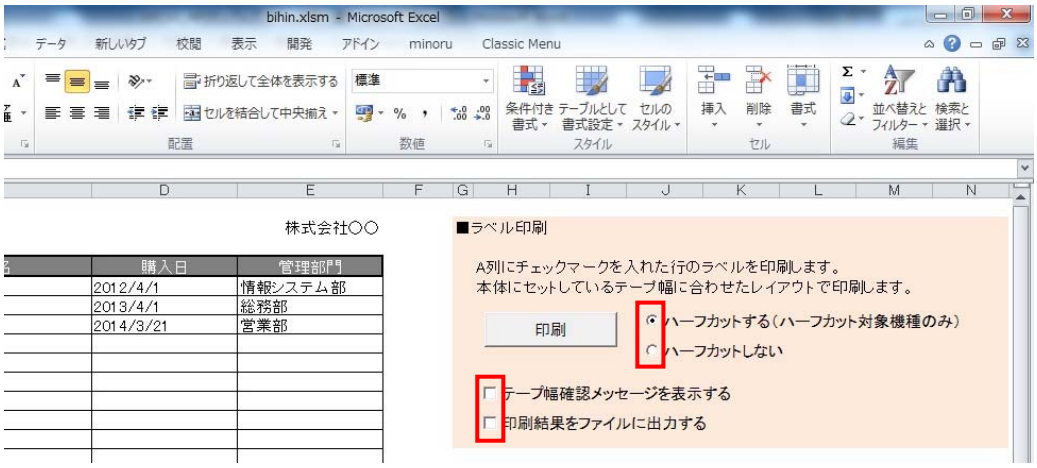


⑥ 本体にセットしているテープ幅に合わせたレイアウトで、ラベルを印刷します。

■追加機能について

「印刷」ボタンを押下する前に、以下の機能を選択することができます。

- ラベルの印刷面のみをカットする「ハーフカット」機能を使用する／しないを選択できます。（対象機種のみ）
- ラベル印刷時に画面上に「テープ幅確認メッセージ」を表示することができます。
- 印刷結果を、同じフォルダ内にテキストファイルで出力することができます。
  ※印刷成功の場合：“0[Tab]succeed” ／ 印刷失敗の場合：“1[Tab]fail”



■ご注意

- 機種によって印刷解像度や印刷可能領域が異なるため、同じテープ幅でも印刷したラベルが同一にはなりません。
- SR3500P は、ラベルの余白を狭く設定したレイアウトでは、自動カットせずに「カットマーク」を印刷します。
- 4mm/6mm/9mm 幅のテープカートリッジ、転写テープ・カットラベルをセットした場合、テープ幅エラーとなります。
- 解凍済みフォルダから、Excel マクロ有効ファイル（.xlsm）とレイアウトファイル（.tpe）を移動すると正常に動作しない場合があります。Excel マクロ有効ファイル（.xlsm）とレイアウトファイル（.tpe）は同一フォルダ内に置いて使用してください。

開発者様向けのご案内

以下は、ERP 製品開発者様、企業のシステム管理者様向けのご案内となります。

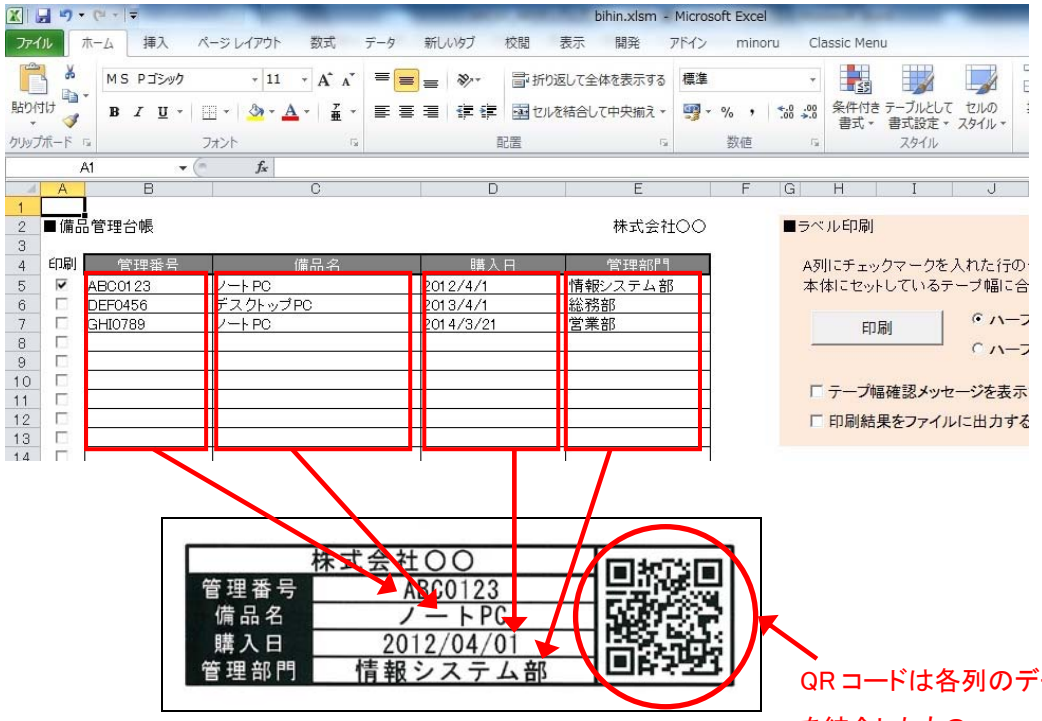
本サンプルプログラムは、「テプラ」PC ラベルソフト SPC10 および「テプラ」プリンタドライバとの連携を、Excel の VBA プログラムによって実現しています。
呼び出しコマンドの詳細については、「SPC10-API」機能ユーザーズ ガイド をご覧ください。

外部プログラムの呼び出しがおこなえないアプリケーションソフトからは、お使いになれません。
プログラミングに関するアドバイスやデバッグなどにつきましては、当社のサポート対象外となりますので、ご了承ください。

1. 印刷するラベルの内容の決定

まず、基となるデータから、どのようなラベルを印刷するかを決めます。

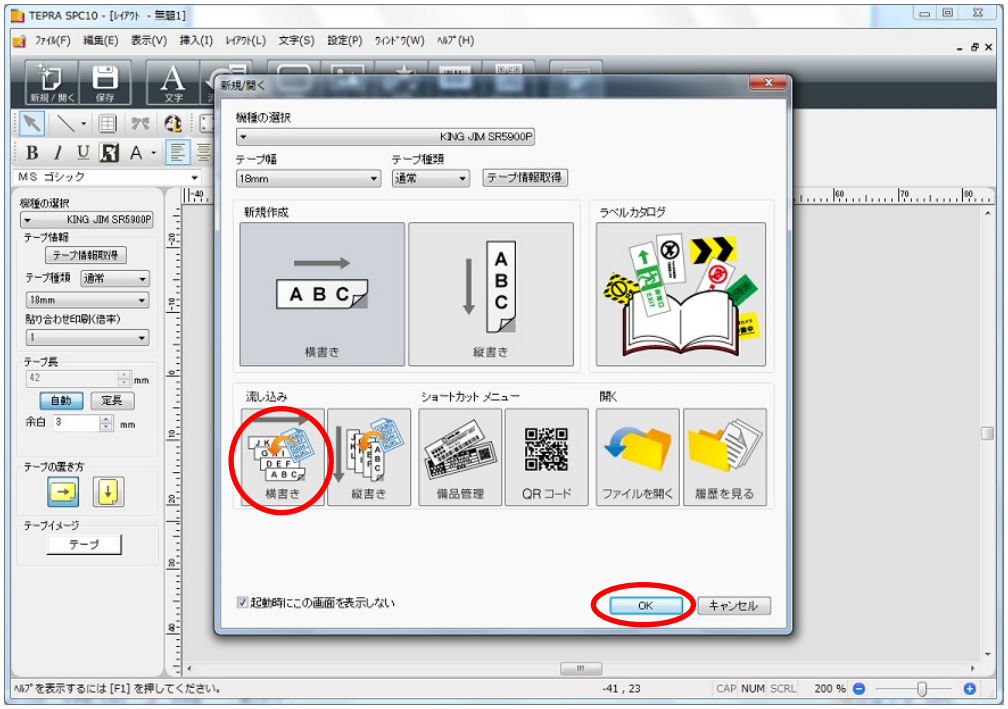
本サンプルプログラムでは、3 種類の用途でのラベルを印刷する例で作成していますが、いずれも管理項目として Excel のセルに入力したデータを、CSV 形式のファイルに出力しています。
データをどのような順番で出力し、ラベルのどの場所に印刷するかを決めます。
なお、セルのデータを VBA プログラムで処理（演算や文字列操作など）した結果を、印刷することも可能です。



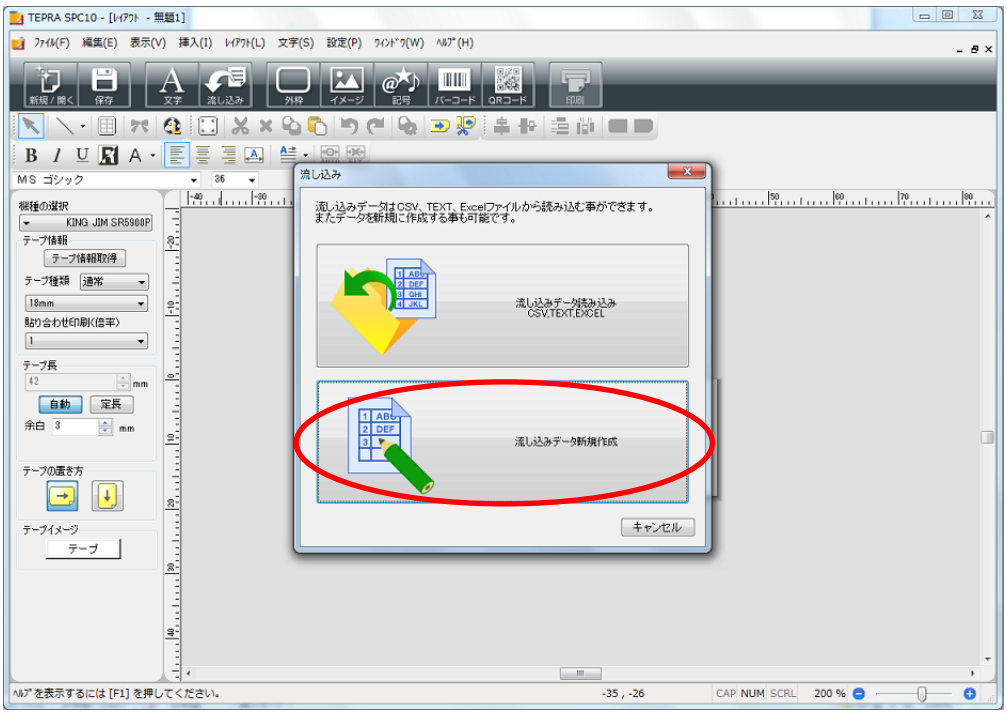
2. テンプレートファイル（.tpe）の作成

1. で決めたラベルの内容にしたがい、SPC10 の流し込み機能でラベルのデザインをおこないます。

流し込み機能は、新規作成画面で「流し込み」のアイコンを選択して「OK」をクリックします。

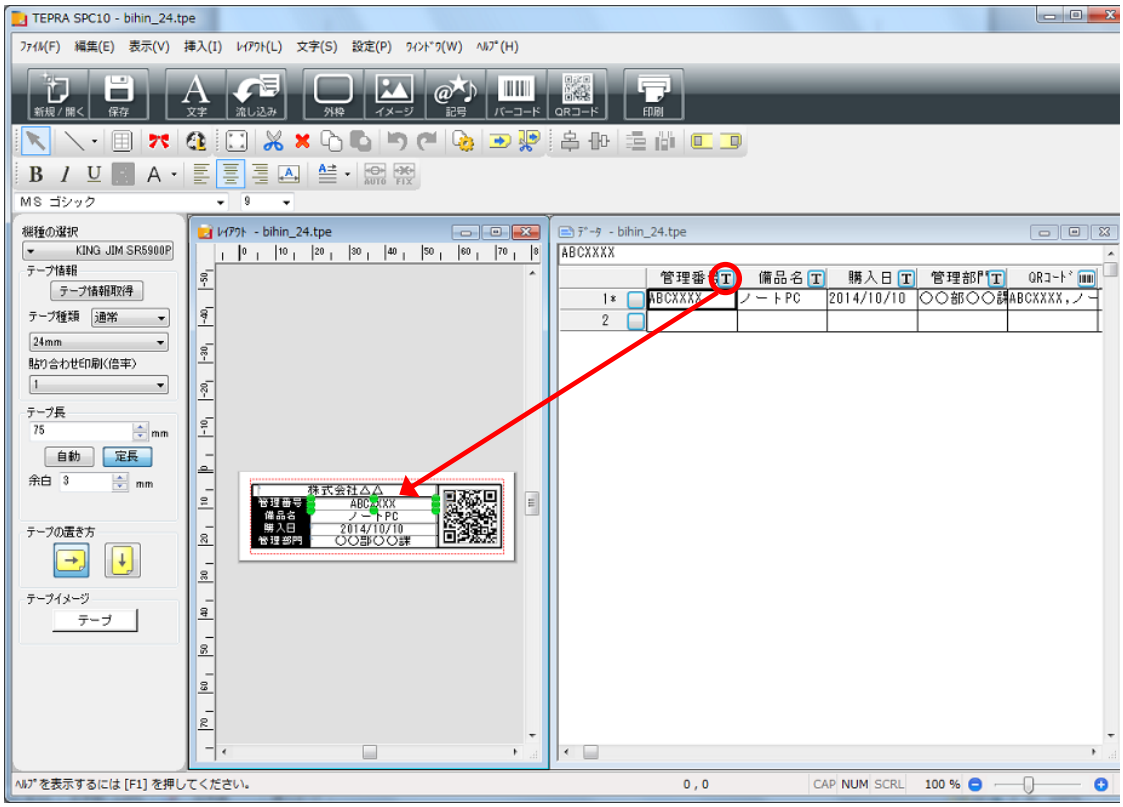


「流し込みデータ新規作成」をクリックし、データ作成画面を開きます。



表示された画面で、各列のラベル上での印刷位置の割付けと、見出しや枠線などのデザインをおこないます。

具体的には、右側のデータ作成画面の と書かれた「列属性」アイコンをクリックし、左のレイアウト編集画面へドラッグすることで、「流し込み枠」がラベルイメージに貼りつきます。



データ作成画面の各列の並びの順番が、印刷データファイル（.csv）でのカンマで区切られた並び順に相当します。

この例ではいちばん右の「列属性」を に変更している列が、QR コードの流し込み枠になっています。印刷データファイル（.csv）の 5 番目の文字列が上記の列にあたりますので、その文字列で QR コードが生成されることになります。

テンプレートファイルの作成に際し、各列の 1 行目には文字列を入力しておきますが、入力した文字列データは「SPC10-API」機能では印刷には使われませんので、ラベルのデザインを作成するために適当な文字列を入力しておいても問題はありません。

3. VBA プログラムの作成

本サンプルプログラムにおける Excel マクロ有効ファイル（.xlsm）の VBA プログラムの主な処理は、以下の内容になります。

具体的な記述形式や詳細は、VBA プログラム内のコメントおよび「SPC10-API」機能ユーザーズ ガイド をご確認ください。

① OS の 32bit/64bit 環境を判別

② テープ幅取得関数の定義

③ オプション文字列生成関数の定義

- テープ幅のファイル出力（/GT オプション）
- カット設定（/C オプション）
- テープ幅確認メッセージの On/Off 設定（/TW オプション）
- 印刷結果のファイル出力（/L オプション）

④ 印刷実行関数の定義

- 印刷コマンド（/p オプション）

  ※プリンタドライバ、SPC10 アプリケーション、テンプレートファイル（.tpe）の呼び出し

■ご注意

- 「SPC10-API」機能は、SPC10 Ver.1.00 以降に搭載されています。
- ラベルソフトの最新のバージョン情報、対応機種の最新情報などにつきましては、当社ホームページをご覧ください。

「キングジム」、「KING JIM」、「テプラ」、「TEPRA」は、株式会社キングジムの商標または登録商標です。
「Microsoft」、「Windows」、「Excel」は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
「QR コード」は、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
その他記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

PC ラベルソフト SPC10 「SPC10-API」機能 サンプルプログラム 簡易マニュアル
2015年10月
発行：株式会社キングジム
Copyright 2014-2015 KING JIM CO.,LTD.